

## アドラー心理学の理論・思想・技術 セオリーとエピソード

角野雅芳（東京）

### 要旨

キーワード：

### はじめに

アドラー心理学が日本に紹介されてから約 10 年たちました。多くの本や報告書によって一般の人たちへのアドラー心理学の普及がなされ、スマイルや各種講座による教育システムを通じて、多くの方々が実践的にアドラー心理学を学ばれています。今やアドラー心理学は、医療、教育、家庭、企業の実践において、たいへん多くの人々の熱心な支持を得ています。一方、各地方においては、これらの教育システムにすべて頼るのではなく、グループで、あるいは自力でアドラー心理学を学び研究し始めている熱心な方々も徐々に増えています。この小論ではアドラー心理学の理論・思想・技術の一定式化を提案します。これによってこれらの人々がアドラー心理学を体系的に理解するためのヒントになれば幸いです。

### 1. 立体的理解

「私はAの事は、良く知っている。」と言ったら、次の3つのレベルがあります。

1. Aのやり方を知っている。（セオリーの次元）
2. Aを見たことがある。（エピソードの次元）
3. Aをした事がある。（エクスペリエンスの次元）

たとえば「A=サッカーの試合」の場合は、TVで見ているのも知っているうちに入でしょう。しかし、「A=カレーライスの試食」となるといかがでしょうか。カレーライスを食べたことのない人は、それを知っているとは言い難いですね。私たちのもっとも興味のある「A=SEX」の場合はさらに奥深いものがあります。

ところでAを知る順序なのですが、1→2→3の順にいくのが安全でしょう。いつまでも1や2の次元にとどまっていると耳年増と言われてしまいます。そしてエクスペリエンス（体験）の次元までくると、一通り解ったことになります。ちなみにいきなり3というのは避けた方がいいでしょうか。

一方、個々の次元には、それぞれ専門的理解を持った理論家、評論家、実践家たちがいます。私の家では、母が実践家、父が評論家でした。母は市内の子供達をキャンプに連れていったり活発に活動していました。父は世事に詳しく、TVなんかは一度に2つ見えています。毎週のように国立博物館などに出かけ、家で批評してます。(評論家を軽視してはいけません。) その様な両親を持った私は、難しい科学の研究をする理論家になってしまいました。家族員の分業があった訳です。話がそれましたが、言いたい事は、専門化するのもいいが、個々の次元だけでなく、この3つの次元をもった空間について立体的に知ることも大切である、ということです。

さて、「A=アドラー心理学の実践」の場合はどうでしょうか。改めて書いてみます。

1. アドラー心理学の思想・理論・技術を知っている。(セオリーの次元)
2. アドラー心理学の各分野の実践例を知っている。(エピソードの次元)
3. アドラー心理学の実践体験がある。(エクスペリエンスの次元)

こうしてみるとアドラー心理学も3階建ての建て物である様です。従来、各階においては多くの研究がなされてきました。これからはアドラー心理学を立体的に身につけることが目標です。その第一歩として、この小論では、1階のセオリーの定式化を提案し、2階のエピソードについてセオリーから考察します。

## 2. セオリーの次元

アドラー心理学のセオリーは、メタ理論と、思想(規範)、技術の3つに大きく分けることができます。アドラー心理学は心理学ですから、人類救済を最終目的としています。したがって、そのための戦略、戦術、戦闘技術というべきものがあります。(これらの言葉の響きは好ましくありませんが、とても分かりやすいのでとりあえず使わせて下さい)。アドラー心理学の戦略は共同体感覚のある暮らしを実現することです。アドラー心理学の戦術は勇気づけです。ここまでは一般論です。この先の戦闘技術は、医療、教育、家庭、企業等の各実践分野の特殊技術の事です。(もちろん、たとえば治療の特殊技術の中にも、従来言われているように、治療戦略、治療戦術、治療技術があります。)これから、[理論、思想、技術] × [共同体、勇気づけ、各分野の特殊技術] の9個の行列要素が考えられます。つまり具体的には、共同体理論、勇気づけ理論、各分野の特殊技術理論、共同体思想、勇気づけ思想、各分野の特殊技術思想、共同体技術、勇気づけ技術、各分野の特殊技術、の9個です。これらを9個のセオリー要素と呼ぶ事にします。以下にアドラー心理学のセオリー要素の内容をまとめた表を書いておきますから、これを見ながら読んで下さい。ここでは主に共同体と勇気づけの簡単な一般論について検討します。理論については文献1を参考にして下さい。

### (1) 民主的共同体の実現・維持

アドラー心理学の最終目標は人類の救済です。救済とは、個人が共同体に建設的に所属することであると考えます。そのためのアドラー心理学の戦略目標は、まず民主的な共同体を実現・維持することです。そして戦術は個人が自らを救済するよう援助することです。つまり個人が共同体に建設的に所属できるように援助することです。個人が共同体に建設的に所属できるように援助することを勇気づけといいます。従って、アドラー心理学の戦術は勇気づけであるということ

	理論	思想（規範）	技術
共同体	場の理論 共同体が個人を創り 個人が共同体を創る。	民主性（民主主義） 共同体的な暮らしの実現 民主的規則の設定言明化 横の関係	課題の分配 共同体会議のやり方 規則の設定、維持、変更 共同体への正の注目
勇 気 づ け	現象学 人は意味付けを通して 現実を体験する。	現実性（尊敬・信頼） 自分の課題に現実的に 取り組む。自分の能力 でできる事を考える。	高い現状評価 正の注目、負の注目 肯定表現への言い替え 意見と事実の区別 瞑想
	全体論 心と体は分割できない 全体だ。	責任性（責任） 100%自分の責任で目標 設定する。自分の行為 の結末を引き受ける。	適切な目標設定 課題の分離、私言葉 完全な目標を実行可能な 目標に変える。
	目的論 人の行為には目的がある。	予測性（知的生活力） 行為の結末を予測する。 代替案から適切な方法 を選択する。	合理的な方法決定 自然の結末・社会的 結末・論理的結末
	対人関係論 人の行為は他者に向けられ ている。	自主性（社会性） 自分が変わる事で課題を実 行する。自主的に社会参加 する。権利主張性	主張的な課題実行 主張性 課題に取り組む過程を重視 体験から学ぶ
各 分 野 の 特 殊 な 技 術	治療技法選択理論 カウンセリング技法選択理 論 教育システム理論 子供の5つの不適切な 行動の目的	ニーズにあったサービス クライアントに適した医療 を施す。 子供に適した自由な教育 権力闘争から降りる。	心理療法技術 ライフスタイル診断 各種治療技法 カウンセリング技術 カウンセリングトーク ライフタスク分析技術 教育サービス技術 教育カウンセリング技術 家庭内暴力への対処技術

### アドラー心理学の9つのセオリー要素と12の勇気づけ要素

になります。基本的に戦略は共同体レベルであり、戦術は個人レベルである点が異なります。

共同体理論として場の理論が考えられます。これによると、共同体が個人を創るのみならず、個人も共同体を創ります。これが民主的共同体の実現が可能であることの理論的根拠になっています。

さらに思想要素として個人が共同体を創るとは、個人が共同体の規則を決定することであると考えます。しかもその規則は民主的な規則であることを要請します。民主的であるとは、共同体の構成員が対等な資格で規則の制定に関与できるということです。もちろん制定された規則の適用も（とれる責任の量に応じて）平等です。このように、民主性の前提には構成員の対等性があります。個人の自立と他者との協力、あるいは個人の権利と責任の感覚に基づく対等な関係を、横の関係と呼んでいます（文献2）。

ところで共同体の規則を決定し、履行させるためには、規則の内容の合理性・手続きの民主性・適用の平等性が必要です。そのための技術として民主的な規則制定機関である共同体会議があります。そこでは各人に共同体を維持するための課題の分配を行います。そのようにして結果的

に個人は共同体から課題を与えられます。その後、個人がいかにかその課題に取り組むのを勇気づけるかは戦術のレベルになります。以上が民主的共同体の実現・維持に関するアドラー心理学の理論・思想・技術です。

## (2) 勇気づけ

先ほど述べたように、共同体を維持していくためには、いくつかの課題が共同体に所属する個人に与えられます。その課題が仕事・交友・愛（家族）のタスクです。そして、勇気づけとは個人の建設的な課題への取り組みを援助することです。

### < 1 > 勇気づけの技術要素

ここでは、個人が課題に取り組む基本的過程を表すモデルとして、現状評価、目標設定、方法決定、課題実行の手順で取り組むモデルを採用します。すると、勇気づけ技術は、高い現状評価、適切な目標設定、合理的な方法決定、主張的な課題実行から成り立っていると考えることができます。カウンセラーの方々はお気づきでしょうが、早期回想解釈も技術ですから、まさにこの手順で行われています。ここでは、これらを4つの勇気づけの技術過程要素、あるいは勇気づけの技術要素と呼ぶことにします。以下に4つの技術過程要素の具体的な内容例を紹介します。スマイル（文献3）を学ばれた方々にはよくご存知のものばかりです。

#### 1) 高い現状評価技術

適切な行動に正の注目をする。不適切な行動に注目しない。

現状の否定的・悲観的評価を肯定的・楽観的評価に変える。

自分の意見と事実を区別する。

瞑想により現実的な感覚を取り戻す。

#### 2) 適切な目標設定技術

この課題は誰の課題かを明確にする。（課題の分離）

人の課題に立ち入り悩む代わりに、自分の課題に取り組む。（“あなた言葉”でなく、“私言葉”で表現する。）

質、量ともに完全な目標でなく実行可能な目標にする。

#### 3) 合理的な方法決定技術

自分の行為の自然の結末・社会的結末・論理的結末を予想し、いくつかの代替案の中を検討し、その中から建設的結末が得られる目標達成方法を選択・決断する。（治療各論においては合理的な方法が決断・実施できない場合は、必要があれば、ライフスタイル診断を行い、自分の不合理な思いこみを合理的なものに変える。）

#### 4) 主張的な課題実行技術

自分の権利を相手の課題に立ち入る事なく相手に対して肯定的・理性的に主張する。

課題に取り組んでいる過程に注目・共感する。

実行結果（成功も失敗も）を批判・批評せず体験から学ぶことに注目する。

## <2> 勇気づけの思想要素（勇気づけ技術の思想的背景）

アドラー心理学は、個人の共同体への建設的な参加と所属の感覚を共同体感覚と呼んで、価値あるものとしています。この言葉を用いれば、勇気づけとは共同体感覚を育成する援助をすることです。従って、勇気づけの思想は共同体感覚の育成にあると端的に表現できます。しかしながら、極度の単純化は誤解や言葉の実体化を招きやすく、せつかくの思想の批判性が失われてしまう危険性があります。そういう訳で、構成概念である共同体感覚を思想要素に分解し、勇気づけの事例であるエピソードに直結した形で理解・共感できるようにしたいのです。

ここでは、4つの勇気づけの技術（過程）要素に対する、アドラー心理学のとる価値判断を含む思想的立場である現実性、責任性、予測性、自主性を4つの勇気づけの思想要素とし、それらの構成体をアドラー心理学の中核をなす勇気づけの思想として位置づけることを試みます。更にアドラー心理学に対する代表的な不満とそれに対する思想要素からの返答例を簡単に書いてみました。この勇気づけの思想の持つ高い自己批判性・創造性について理解してもらえんと思います。また次に挙げる思想要素の隣の括弧の中にある尊敬、責任、生活力、社会性の4項目は、それぞれの思想要素に対する規範的な表現であり、教育の4つのS（文献4）として知られているものです。

### 1) (尊敬・信頼)

自分の課題に現実的に取り組む。現実的に取り組むとは、現実的な意味付けに変えて受け入れる、あるいは自分の能力でできることを考える、ということである。

現状を高く評価する意味づけをするということから、自分と世界を尊敬・信頼するという態度とつながる。

### 2) 責任性（責任）

100% 自分の責任で目標設定し、自分の行為の結末を引き受ける。

### 3) 予測性（生活力）

行為の結末を予測する。予測された行為の結末を吟味し、いくつかの代替案を立て、その中から適切な目標達成方法を選択決断する。生活をしていくときの知的能力と関係している。

### 4) 自主性（社会性）

自主的に自分が変わることで課題を実行し、社会参加する。大抵の課題は自分が変わる決断をしさえすれば実行できる。

以上の4項目から、現代アドラー心理学の勇気づけの思想は、「まず現状の課題を現実的に受け入れ、自らの責任で目標設定を行い、予測性を使って目標に到る手段を考え、自分が先ず変わることによって課題を実行する。」ことであると、実践的に定式化できます。思想の規範的な側面を表す要素である尊敬、責任、生活力、社会性の4項目（教育の4つのS）は、現実性、責任性、予測性、自主性の4項目と、それぞれ深い対応関係があることがわかります。従って4つのSも勇気づけの思想の中核的概念として位置づけることができます。そういうわけで、4つのSはアドラー心理学に基づく勇気づけの教育システム（文献5）の目標となるのです。

ところで、現代アドラー心理学には一貫した哲学、抜群の救済力がありますが、あまり大衆受けしないようです。それは、学べば学ぶほど、我々の文化が期待する救済結果（例えば、より多くの現世の富、名声、快樂、権力、安心、あるいは来世での永遠の命、悟り、宇宙のお力？）を

もたらず事を目的としていない心理学であることがわかってくる（文献6）からでしょう。以下に4つの代表的な不満とそれに対する思想要素からの返答を書きます。これによって思想要素の思想的性格が良く判るのではないかと思います。

不満1：楽じゃない。

「偉い人の教えで楽になりたい。神様の奇跡や運命の幸運も捨て難い。めんどくさいことは何にもしないで暮らせないか。」

返答1：現実性

「仕事・交友・愛のライフタスクから逃れたくない。あらゆる甘い期待を捨てて、自分の能力のできる現実的な選択枝の中で、自分が望む結末により近いものを選ぶ。」

不満2：自分が頼れるものがない。

「おすがりする阿弥陀様もキリスト様もいらっしゃらない。究極的自己も真理も在るのか無いのかも判らない。この世はヤミだ。」

返答2：責任性

「大日如来様等がいらっしゃってもかまわないが、頼ろうと思ってない。私以外の何かが私の主人になる事を許さない。だから私でない何かのせいで、被害者になることもない。」

（たとえ決断・選択する主体的自己はあっても、それには属性がなく、その内容を語る事ができない。ライフスタイルは環境の影響を受けるので、行動の形を決める形相因には成り得ても、行動を根本的に生じさせる始動因には成り得ない。よってライフスタイルは始動因たる究極的自己にはならない。）

不満3：到達目標がない。

「究極のライフスタイルに改善し、悟って人生ゲームの勝者になりたい。」

返答3：予測性

「ライフスタイル等により、体系的に個人に起こることを予測できる。しかし、ライフスタイルの完成はない。ライフスタイルの改善すらも本質的な問題ではない。所詮ライフスタイルは信じるものでなく批判するものである。一刻一刻を噛みしめて、ただ人と自分を勇気づけて生きていくしかない。」

不満4：人を思い通りに操作できない。

「心理学は人を操作してこそ価値があるのだ。周りの人を自分の好みに作り変える方法が知りたい。」

返答4：自主性

「他人を思いのままに変えたり支配しようとすることは、破壊的な結末になる。他人を変えたり支配することは、不可能だ。たとえ可能でも、自分の仕事ではないし、やる気もない。自分が理性的関わり方、働きかけを学び、実践することで協力的な状況を作り出していくことを指向する。」

生きたアドラー心理学を伝えていく上での思想の重要性は文献6で既に指摘、議論されています。その内容の多くはまさにここで言う勇気づけの思想要素に対応していることがわかります。人間の置かれた、頼ることも支配することも、到達することも降りることもできない状況は、ツラトウストラの道化師の綱渡り（文献7）にも似た厳しいものであるかもしれません。しかしこ

れは、アドラー心理学のせいではないのです。アドラー心理学は、人間の人間を取り巻く世界に対する現実的な姿勢についてただ語っているのです。

従来、思想といえば、ここで共同体思想と呼んでいる、民主主義（ルール）や横の関係が思想的なものであると考えられてきたようです。例えばカウンセリングでは、思想的側面と技術的側面のどちらに重点が置かれるかという問に対して、交友関係の樹立までは、思想的側面に、カウンセリング目標の一致以後は技術的側面に重点が置かれるなどと解釈されてきました。確かに大体そうです。しかしながらアドラー心理学が勇気づけに対して持っている価値観は勇気づけの思想として扱い、アドラー心理学の思想概念の拡張をはかると、技術、思想、理論はカウンセリングの全過程で密接に関わり合っていると考えることができます。また技術・思想・理論の横の密接な関わりがある事はカウンセリングを学ぶ上でも有益ではないかと思われまます。

### < 3 > 勇気づけの理論要素

勇気づけの理論要素は現象学、全体論、目的論、対人関係論の4つです。勇気づけの思想・技術との対応は最初の表の通りです。これらは、4大基本前提としてアドラー心理学理論の中核を成すものであると思われています。しかし12ある基本前提（文献1）は純粋な理論ではなく、関連思想、技術を含んでいますし、その内でなぜこの4つが中核理論として選ばれるのかは明確ではありませんでした。実践的経験から選ばれているようです。ここでは、理論について思想・技術との横の対応を考えることで、必然的に4大基本前提が勇気づけのレベルで主要な役割を果たしていることが明らかになったと思われまます。

### (3) 各分野の特殊技術

各分野の特殊技術とは、医療、教育、家庭、企業の各分野での個々のケースに応じた勇気づけの仕方の技術のことをいいます。それらにも理論・思想・技術の側面があります。まず思想的側面は、「消費者のニーズに合った経済的なサービスを提供する。」（文献8）ということです。クライアントに適したセラピーやカウンセリングのサービス、子供にあった教育学習方法のサービスの事です。具体的技術として、教育では、たとえばアドラー心理学に基づくC4R学校では、各教科の進歩表や毎週の客観テストや5通りの学習方法が用意され、子供たちが自分の好きな時期に、好きなレベルの、好きな教科を、好きな方法で学習できるようになっています（文献5）。教育理論の例として、「子供の不適切な行動の5つの目標と対応」（文献4）等といったものが現場の学校で役に立つようです。医療では、正攻法として早期回想解釈によるライフスタイル診断があります。あるいは誇張法や逆説法（文献9）などを使い、クライアントの予期しない対応で短期間に治療効果を上げる方法があります。治療理論では、これらの技法の選択の理論があります。企業における勇気づけの技術については文献10がたいへん参考になります。家庭の分野での特殊技術は、家庭内暴力等の対処技術です。平和な家庭では勇気づけの一般論や家族会議（文献11）で十分です。平和な家庭は共同体そのものですから特殊な技術は要らないのです。逆に言えば、勇気づけの一般論は共同体に対する一般論ですから、勇気づけの一般論が家庭での育児技術と殆ど変わらないのは、家庭が典型的な共同体だからです。

### 3. エピソードの次元

いままで議論してきた理論・思想・技術の要素が、実際のエピソードの中でどのような言葉となって現れてくるかを考えてみたいと思います。はなはだ不完全であるとは思いますが試みてみ

ます。

はじめに「アドラー先生の積み木の片付けの話」について、尊敬、責任、社会性、生活力（4つのS）の思想（規範）的観点から、エピソードに現れている勇気づけを探しだし、ワークシートに記入します。次に同様にして、「働きますか、それとも遊びますか」の話について、現象学、全体論、目的論、対人関係論の理論的観点から、あるいは勇気づけの思想要素的観点から、エピソードに現れている勇気づけを探しだし、ワークシートに記入します。

#### エピソード1：アドラー先生の積み木の片付けの話

アドラー先生は、積み木を部屋中に散らかしている子供たちに言った、「やあ、とても上手に散らかしたね。今度は上手に片づけられるかな。」すると子供たちは、すぐに片づけ始めた。

アドラー先生は子供達の現状をどのように勇気づけたか、それに対し子供たちはどう反応したかを、4つのSの観点から検討してみます。

4 S	アドラー	子供たち
尊敬	現状を肯定的に評価して伝える。 (子供たちには積み木を散らかす力がある！) 「とても上手に散らかしたね。」	アドラー先生の言うことを聴く。
責任	子供達が積み木を片づけられるように援助する事が課題である。	積み木を片づけるのは僕達の課題だ。
生活力	「子供達が課題に挑戦できるような言い方を工夫できる。「今度は上手に片づけられるかな？」	積み木で友達と遊べる。
社会性	自分から子供たちに声をかける。	すぐに協力して積み木を片づける。

#### エピソード2：「働きますか、それとも遊びますか。」

(前略)

A：「保険の外交をやったんですけど、もう仕事で疲れちゃって、今は失業中なんですけど、このままじゃいけないなと思ってます。どうしたらいいでしょうか。」

N：「遊ぶか、働くかの選択しかないんですよね。どちらにしますか。遊ぶのだったら、道楽して遊ぼう。働くのだったら就職活動しよう。」

A：「遊ぶって言ったって、なにをしていいかわかんない。」

N：「(ニコニコして) じゃあ、働こう。」

A：「就職しても、また疲れちゃって続かないかも。」

N：「(ニコニコして) じゃあ、遊ぼう。」

A：「でも今の状態はやっぱり充実してないから。」

N：「(ニコニコして) じゃあ、働こう。」

A：「(クスッと吹き出す)... でもね。」

N：「結局、今のあなたに選べるのは、不幸に遊ぶか、不幸に働くかのどちらかなのですね。」

A：「そうですね。なんとなく情けないけど。」

(以下略)

Nカウンセラーは、Aさんが働くべきかどうかについて話し合いませんでした。勇気づけの理論に対応するカウンセラーの勇気づけの言葉と、その考え方の説明を書いてみましょう。

理論	考え方の説明	カウンセラーの勇気づけの言葉
現象学	クライアントとの言葉に共通に理解できる意味づけを与える。	「(充実)の定義付け等」
全体論	どちらか決められないと言う分裂した状態は存在しない。	「どちらにしますか。」
目的論	将来の目標を決めないと現在が決まらない。	「(近い将来)遊ぶか、働くか決めて下さい。」
対人関係論	明るい話題でつながりたいから。	「(ニコニコして)じゃあ働こう。」 「(ニコニコして)じゃあ遊ぼう。」 「遊ぶのなら道楽しよう。」

勇気づけの思想に対応するカウンセラーの勇気づけの言葉と、その考え方の説明を書いてみましょう。

思想	考え方の説明	カウンセラーの勇気づけの言葉
現実性	今の自分の能力で選べる選択を考え、ライフタスクに立ち向かう。	「不幸に働くか、不幸に遊ぶかは選べる」
責任性	100% 自分の責任で選択することを援助する。	「どちらにしますか。」 「(ニコニコして)じゃあ働こう。」 「(ニコニコして)じゃあ遊ぼう。」
予測性	過去の状況から、働くべきかどうか決定できない。	「(近い将来)遊ぶか、働くか決めて下さい」
自主性	自分が変わることによって状況を変えていくことを指向する。	「(充実)を楽しめるようなものに変えていく」

共同体思想やカウンセリング技術思想に関連するカウンセラーの勇気づけの言葉とその考え方の説明を書いてみましょう。

思想	考え方の説明	カウンセラーの勇気づけの言葉
横の関係	相手の課題には口を挟まない。 自分の価値観を押しつけない。	「どちらにしますか。」 「(ニコニコして)じゃあ働こう。」 「(ニコニコして)じゃあ遊ぼう。」
尊敬	相手には決断する能力がある。	「(近い将来)遊ぶか、働くか決めて下さい。」
目標の一致	カウンセリング目標を定め、カウンセリングを終結させる。	同上
生産性	相手の時間的、経済的無駄を省く。	「働くか遊ぶかの選択しかない。」

## おわりに

アドラー心理学の理論・思想・技術の観点から、共同体、勇気づけ、各分野での特殊技術について考察する方法を提案しました。とくに勇気づけについては、勇気づけの4つの過程を考えて、

勇気づけの理論・思想・技術の要素について提案、考察しました。さらにこれらの中核的なセオリーの要素がエピソードの例の中でどのような言葉になって現れるかを具体的に検討してみました。これによって実践的なアドラー心理学セオリーの定式化の一つの方法を提案できたと思います。これによってアドラー心理学の真ん中の美味しい所がより立体的に学びやすく整理されたとお感じになっていただけたら幸いです。

## 参考文献

- (1) 野田俊作監修『実践カウンセリング』ヒューマン・ギルド発行部
- (2) 野田俊作『アドラー心理学トーキングセミナー』アニマ 2001 発行所
- (3) 野田俊作監修『SMILE』ヒューマン・ギルド出版部
- (4) 野田俊作、萩昌子『クラスはよみがえる』創元社
- (5) 角野雅芳訳「個人教育（I E）トレーニングマニュアル（エドワード・イグナス）『アドレリアン』第4巻第2号、第5巻第1号（1991）
- (6) 野田俊作「心理学における土着思想と反土着思想」第9回日本アドラー心理学会総会基調講演
- (7) ニーチェ『ツラストウストラはかく語りき』岩波文庫
- (8) 野田俊作「共同体感覚の諸相」『アドレリアン』第5巻第2号（1992）
- (9) 伊東毅「ドラマチック・コンフロンテーション：アドレリアンカウンセリングの一症例ー「ゲリラ戦」の応用ー」『アドレリアン』第5巻第2号(1992)
- (10) 岩井俊憲『人を動かす人に 29 の切り札』青春出版社
- (11) 鎌田穰「アドラー心理学にもとづく親教育理論」『アドレリアン』第5巻第1号（1991）

## 更新履歴

2012年6月1日 アドレリアン掲載号より転載